

「教育実習に思うこと」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ 卒業生が教育実習生として帰ってきました

毎年のことではあるのですが、6月になると卒業生が実習生となって帰ってきます。教職離れが声高に叫ばれている昨今ではありますが、先ずはこうして帰って来てもらえたことが嬉しいな、そう思います。少なくともこの教育実習を経ないと教員免許状は取得できませんから、教壇に立つ資格さえも得られないのです。

今回、ありがたいことに教務部の津田先生は実習生の最初の時間を私にくれました。「15分ほどの講話を…」とのこと。投げかけただけの言葉は残りにくいですから、私はペーパーにまとめて伝えることにしました。

「教育実習生の皆さんに」

1 抱えきれない不安と、僅かの自信さえ身につけることができたなら…

- ・現在の正解が10年後も正解であるとは限らない時代です。
- ・思い通りにいかなくて、当たり前です。それは僕も同じです。
- ・それでも必死に取り組んでいけば、何かしらうまくいくことがあるかもしれません。
- ・いや、そもそも克服したい不安があるから、人はまっすぐに努力できるのです。
- ・もし僅かでも「うまくいった」そう思う経験ができたなら、あなたは教員の資質「あり」かもしれません。

2 そのために必要なのは真摯さでしかない僕は思っています

私が今、意識していることは

- ・生徒の様子をいちばん知らないのは自分であると自覚すること。
- ・受け入れてもらえるよう誰に対しても明るく振る舞い、積極的に仕事をする。
- ・個々の思いについて叶えられるかどうかは別として、先ずは丁寧に耳を傾けること。
- ・「判断を誤った！」と思ったら直ちに謝り、スタートラインに戻って考え直すこと。
- ・自分の思いを押しつけないこと。ただ、自分の思いを伝える努力は怠らないこと。
- ・生徒ひとりひとりの生命、先生方ひとりひとりの生命の重みを大切に思うこと。
- ・決して偉そうに振る舞わないこと。

3 どうせやるなら、背表紙をつけられるような日々に…

- ・背表紙のついたアルバムが多い人ほど、幸せな気がします。
- ・『教育実習』という背表紙のついたアルバムが作られると嬉しいですね。

4 むすびにかえて ～私にとっての哲学みたいなもの～

- 一貫性を持つこと
- 周囲のせいにならないこと
- 青臭い正義感を大切にすること
- でも、時に清濁を併せのむ覚悟も持つこと
- 自分が間違っていると思ったら、謝ること
- 誠心誠意、謝ること
- 背伸びをしないこと
- でも、身の丈を伸ばす努力は怠らないこと
- こびず、おごらず、りきまず、てんばらず、
- 自分らしく、ひたむきに一日一日を刻むこと



○ 昔々の話です・・・

神戸高校にもかつて存在した伝統行事、臨海学舎。私の母校となる高校にもかつては伝統行事として存在し、そこでは2年生の助手が1年生に水泳指導等を行うというルールがありました。そこで高校2年生の夏、友人に誘われた私は助手に立候補したのですが、『不採用』を言い渡されました。泳力的には問題はないけれど、「後ろ髪を長く伸ばした、服従的じゃない生徒であるため不適格」とのことでした。

後ろ髪を切り、「今後、問題を起こさないよう努力する」旨を誓い、ようやく助手になれた私は「元気があり余っている」1年生が多くいる班の助手を任せてもらいました。3泊4日、彼らと心から楽しい時間を過ごした最後の早朝、助手のみんなで海岸のゴミ拾いをしていると、体育の先生が近づいてきました。

「おはようございます」と私が自分から頭を下げると、先生は軽く頷いてから、こんなことを言われます。「ああいう子らの相手があんたは本当にうまいな。ある意味、見直したわ」と。それは高校生になって初めて先生から褒められた瞬間でした。ちょっと嬉しくて、「服従的じゃない」私でも自然と頬が緩みました。その時に思ったのです。この世界なら、できの悪い自分でも誰かのためにになれるかもしれない、と。

それまで進路について尋ねられると、「陸上競技か音楽か小説か、そのどれかで名を上げられたらいいかなって思っています」と答えていた私が、それ以来、第4希望として『先生』と書くようになりました。結局、陸上競技も音楽も小説もモノにならず。そんな「夢破れて…」をただ積み重ねた高校時代。

結局、私は教育学部に進学しました。大学3回生では小学校で4週間の教育実習をさせていただき、教員採用試験も小学校の採用枠で受験する予定でした。大学の友人たちが「兵庫県の採用試験で合格すると、何処の町で採用になるか解らんから神戸市の採用試験にしようや」と言うので、そのつもりでした。

でも翌年、高校で教育実習をしたことでこれがひっくり返るんですね。母校、しかもまたもや「元気があり余っている」生徒の多いクラスにお世話になった私は、彼らと深く関わっているなかで「自分の生きるべき場所はやっぱりココやな」そう思う場面に幾度も出くわしたのです。結果として採用試験も高校国語での出願に変更し、それが今に繋がっています。いつも誰かにその気にさせられてばかりの人生です。

もうすっかり背表紙が黄ばんでしまった私の『教育実習』というアルバムを開きます。このたび教育実習に取り組んでくれている5人にも『教育実習』というアルバムが残るといいな、そんなことを思います。

○ 朗報は続々と...

さて、先週号で馬術部の活躍について触れましたが、さらに新たなニュースが飛び込んできました。先週の火曜日、奈良で開催された近畿地区予選において、加納早彩さんが見事に上位4名に入り、8月に北海道で開催される全日本高等学校馬術選手権大会への出場を決めたのです。顧問の竹内先生が「本校にとっては10年ぶりの全国大会出場ですよ」と教えてくれます。快挙ですね、おめでとうございます。

また、小池先生からは松田佳央理さんが囲碁で、7月に香川で開かれる全国高等学校総合文化祭に続き、8月東京開催の全国高等学校囲碁選手権大会への出場も決めたこと、伝えていただきました。これも素晴らしいですね。加納さん、松田さんがともに晴れの舞台で力を発揮できますよう、ただただ期待しています。



校長室横の掲示板に貼られた表彰状のコピーも日ごと日ごとに増えています。特に目をひくのが兵庫県高等学校陸上競技対抗選手権大会の3枚。男子5000m 7位入賞の工藤くん、男子走高跳5位入賞、男子8種競技5位入賞の福武くんがいただけてきました。なかでも福武くんの走高跳は全国大会出場を賭けた近畿大会が今週末に控えています。2mのバーをクリアし、再び歓喜の瞬間を迎えられるよう応援したいですね。

『激しい変化が止まることのない時代』と評される現代、私たちに必要とされるのは『自らの人生を舵取りする力』だとも言われます。自分の「好き」を見つけ、一心に打ち込む日々がそんな力の獲得に繋がっていくとしたら、隣でその様子を眺めているのは幸せなことです。そして私は今更ながら多くの出会いに感謝します。「その気にさせてくれて有り難う」と。

